

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
麻生医療福祉専門学校福岡校		平成9年2月13日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999															
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士															
教育・社会福祉	介護福祉専門課程	介護福祉科			平成10年文部科学省告示第179号	—															
学科の目的	介護福祉士受験資格取得のための指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会福祉に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	1,870時間	1,298時間	120時間	452時間	0時間	0時間														
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数															
80人	29人	9人		4人	17人	21人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎4段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価																
長期休み	■夏季:8月1日～8月27日 ■冬季:12月20日～1月6日 ■春季:2月12日～4月9日			卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.学生としてふさわしい生活態度																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および学科教員との個別ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 介護・社会福祉分野 ■就職指導内容 1年次後期より就職に関する実務を総合的に学ぶ「就職実務」を開講。また、就職研修を実施し、次年度就職年次に進級する上での心構え等を学ぶ。更に独自の面接指導を合格するまで実施する。 ■卒業生数 10人 ■就職希望者数 8人 ■就職者数 8人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 80.0 % ■その他 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士国家試験</td> <td>②</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション・インストラクター</td> <td>①</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士国家試験	②	10人	10人	レクリエーション・インストラクター	①	10人	10人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
介護福祉士国家試験	②	10人	10人																		
レクリエーション・インストラクター	①	10人	10人																		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成30年5月1日時点において、在学者25名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者25名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 退学者なし ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの学生ケース検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 (前年度実績 0名)																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																				
当該学科のホームページURL	URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/care/																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働大臣指定 介護福祉士養成専門課程として、介護福祉業界が求める、より現場の実践に即した技術を修得することを中心としたカリキュラムを編成している。特に実習においては、厚生労働省による指定規則に則った要件を満たす施設および指導者と連携・調整を図りながら、常に効果的な実践教育を行っている。また、実習終了後には、実習施設の指導者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックし、科目編成に活かしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
大庭 欣二	(同)福岡福祉向上委員会 代表	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
江川 順一	(福)つくし福祉会 特別養護老人ホーム はなつくし 施設長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
大澤 利通	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	①
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 リーダー	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	
吉水 美穂	麻生医療福祉専門学校福岡校 専任教員	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月・11月(平成30年度は3回開催)

(開催日時)

- 第1回 平成30年6月30日(土)14:30～16:30
第2回 平成30年11月9日(金)16:00～18:00
第3回 平成31年3月1日(金)16:00～18:00
第1回 令和元年6月29日(土)14:00～16:00

(開催日時 予定)

第2回 令和元年11月22日(金)16:00～18:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

介護福祉士国家試験対策については、個別的な学習支援に関して評価をいただいたが、さらに短期集中型の学習を強化してはどうかという意見をいただいたため、対策合宿をこれまでの1泊から2泊へ変更し、個々のレベルアップをめざすこととした。

また、地域との積極的な交流によって学校の魅力を発信していくべきという委員からの提言を受け、本年度は厚生労働省の補助事業である「これからの介護・福祉の仕事を考えるデザインスクール」へ専任教員が参加した。異なる分野の専門職とワークショップ等を通じて「新しい介護」をデザインすることを体験したうえで、地域における介護福祉士の役割や多職種協働の授業の中で、経験に基づくタイムリーな授業を展開することができた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、「介護実習」を行うにあたり、平素より実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。「介護実習」では、個別ケアの必要性を熟知して、利用者理解と根拠に基づいた介護を実践することを目的として、「個々に適した生活支援技術を提供できること」「介護過程の展開ができること」を実習の目標としている。これら、目的・目標についての意識を統一するために、実習施設および施設指導者、担当教員は常に情報を共有し合い、意見交換をしながら効果的な教育を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に、施設担当教員と実習指導者が打ち合わせを行い、実習計画や内容、実習概要について協議・調整を行う。実習期間中は担当教員が巡回して指導者との連携を図っている。評価については、態度・知識・技能に応じて、評価基準に基づいた評価を指導者よりいただき、担当教員との相互評価としている。

また、実習終了後は学内で報告会を開催。その際実習指導者に参加していただき、実習での学びや気づきを深化させるようにしている。また、実習指導者と教員とで意見交換会(バイザー会議)を開催し、連携の強化を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ-A	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	シティケア博多 おあしす長丘 なのみ工芸 ファミリー那珂 デイサービス草ヶ江 他
介護実習Ⅰ-B	実習ⅠAの延長として、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。また、次年度に実施する実習Ⅱ(介護過程の展開)に向けての課題を見つける。	シティケア博多 おあしす長丘 なのみ工芸 ファミリー那珂 デイサービス草ヶ江 他
介護実習Ⅱ	介護福祉実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員として介護福祉士の役割について理解する。	菊池園 ちづる園 シティケア博多 シティケア長住 月隈愛心の丘 他
介護実習Ⅲ	個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習する。	菊池園 ちづる園 シティケア博多 シティケア長住 月隈愛心の丘 他

在宅介護実習	利用者や家族の生活状況、利用者の全体像を理解し、介護福祉士のかかわり方について学ぶとともに、在宅訪問時の基本的知識と技術・態度について理解を深める。	ケアステーションにしこう ケアステーションにしこう博多 ケアステーションにしこう城南 アップルハート 大野城市社会福祉協議会 他
--------	--	--

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:「生の看護り、死の看取り」(連携企業等:福岡大学 福岡・東アジア・地域共生研究所)
 期間:平成30年11月3日、11月24日、平成31年2月16日、3月2日 対象:専任教員1名
 内容:介護の現場で求められる「死」や「看取り」への対応にそなえて、介護者としての死生観を醸成するとともに、利用者・家族への支援に必要な、心身両面に関する知識と技術を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名:「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)
 期間:平成30年9月5日 対象:専任教員1名
 内容:学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。
 学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

・研修名:「インストラクショナルデザインⅡ」(連携企業等:一般社団法人全国専門学校教育研究会)
 期間:平成30年8月29日 対象:専任教員1名
 内容:育成人材像に基づいた体系的カリキュラムの構築を習得する。
 3ポリシーについて、学科目標・教科目標の整理、学科カリキュラムの見直し・改善を行う。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:「日本生活支援学会 第11回全国大会」(連携企業等:日本生活支援学会)
 期間:令和元年5月11日～12日 対象:専任教員
 内容:介護福祉士の中核となる生活支援に関して、福祉職従事者や教育・研究者が「生活支援」「地域で支える暮らし・生活のあり方」をどのように展開していくかを考え「生活支援学」の構築を目指す。

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)
 期間:令和元年8月7日 or 令和2年2月19日 対象:専任教員
 内容:学生のやる気と能力を引き出すコーチングの基本スキル(傾聴・質問・承認)について、ロールプレイングを通して学ぶ。

・研修名「3つのポリシーの策定・運用実践」(連携企業等:先端教育機構)
 期間:令和元年9月11日、令和元年9月25日、令和元年10月30日 対象:専任教員
 内容:教育の質保証における3つのポリシーの重要性及び関連性について理解するとともに、その策定や運用方法を実習やケーススタディなどを通じて学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本格的に受入が始まる介護分野の留学生については、留学生の募集活動が過度にならぬよう、介護分野を希望するすべての人が等しく学べる環境を整備することへの要望があったため、一貫してそのような偏重がないことを広報部員と共有した。授業においても、演習やグループワークの際には、留学生のみのグループとなるような方法ではなく、留学生も日本人学生も共に学び合う機会を設けるなど、一層の工夫を凝らした。

また、地域公開講座の実施についても、委員より期待が寄せられたことから、2019年2月に映画「ケアニン」を高校生に向けても公開して交流を深めた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
渡辺 裕子	(福)宰府福祉会 児童発達支援センターすみれ園 園長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっぷ 理事長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
武田 聡	(NPO)木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
江川 順一	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
大庭 欣二	福岡福祉向上委員会 代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
占部 尊士	(学)永原学園 西九州大学短期大学部 准教授	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
大澤 利通	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	企業等委員

大山 和宏	(一社)福岡県精神保健福祉士協会 会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	企業等委員
西山 謙	(公社)福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会 委員長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	企業等委員
熊谷 智彦	(学)久留米学園 久留米学園高等学校 校長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民
西原 真由美	こども未来学科 保護者	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 平成27年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 平成15年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
田中 隼平	心理カウンセラー科 平成26年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 平成20年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
大本 栞	医療秘書科 平成23年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 平成24年度卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/amfc/2019/hyoka.pdf>

公表時期: 令和元年7月22日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、4つの特徴
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(学生便覧)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(介護福祉専門課程 介護福祉科) 平成31年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間の尊厳と自立	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。	1前	30		○			○		○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。	1前	30		○	△		○		○		
○			レクリエーション	レクリエーション活動の社会的意義を理解させ、福祉の現場で実践できる能力を養う。	1通	60		○	△		○		○		
○			介護福祉総論	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理を通して理解する。	1通	60		○			○		○		
○			介護福祉各論Ⅰ	介護実践は介護を必要とする人を“生活をする人”として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、個性を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。	1通	60		○	△		○		○		
○			コミュニケーション技術Ⅰ	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	1前	30		○	△		○		○		
○			生活支援技術・基本Ⅰ	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。	1通	90		○	△		○		○		
○			生活支援技術・応用Ⅰ	利用者個人の尊厳を保持しながら利用者が主体的に生活できるよう支援する視点を学ぶ。	1後	30		○	△		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			介護過程総論	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。	1後	30		○			○		○			
○			介護過程各論Ⅰ	①生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。②介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る。	1後	60		○	△		○		○			
○			介護総合演習Ⅰ	①介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けなどを行う。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。	1通	60			○			○		○		
○			発達と老化の理解	①介護実践に必要な知識として、からだのしくみとはたらきについての知識を養うとともに、人間の成長と発達についての理解を深める②発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を学ぶ。③一般的な病気及び高齢期に特徴的な病気や症状と対応について学ぶ。	1通	60		○				○		○		
○			認知症の理解	①医学的側面から見た認知症に関する基礎知識を習得する。②認知症に伴うこころとからだの変化と特徴的な心理行動、及び対応について学ぶ。③本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	1通	60		○				○		○		
○			障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解する。	1通	60		○				○		○		
○			こころのしくみ	①こころの面から利用者の状態を見て、その要因の根拠となる知識について学ぶ。②こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動に影響を及ぼすことを学習する。	1前	30		○				○		○		
○			からだのしくみⅠ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能について学ぶ。	1通	60		○				○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			介護実習Ⅰ-A	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	1前	40			○		○	○	○	○	
○			介護実習Ⅰ-B	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。	1後	80			○		○	○	○	○	
○			ケア・コミュニケーション	介護福祉士として、医療福祉の現場で仕事をするうえでのコミュニケーションの役割を学ぶとともに、対人援助を行うために必要なホスピタリティについて考える。また、コーチングやアサーティブなコミュニケーションを通して、自己開示の重要性についても理解する。	2後	30		○	△		○			○	
○			社会の理解	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。	2通	60		○			○			○	
○			ヒューマンサービス	介護福祉士として、対人援助を行なう上での必要な理論とともに、演習を通して実践力を身につけ、実践に役立つ行動がとれるようになる。	1後	30		○	△		○	△		○	
○			介護福祉各論Ⅱ	各論Ⅰを踏まえたうえで、さらにケアマネジメントや職業、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。	2通	60		○	△		○		○		
○			コミュニケーション技術Ⅱ	①様々な障害を持つ人に対して、障害特性に応じたコミュニケーションの方法を習得する。②介護におけるチームコミュニケーションの意義と方法を習得する。	2前	30		○	△		○		○		
○			生活と住環境	介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていくことを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。	2前	20		○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			家庭生活	介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで生活の楽しさや生活の支障の解決について分かち合うことができる。	2後	40		○	△		○			○		
○			生活支援技術・基本Ⅱ	基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。そのために必要な、介護技術・援助方法の習得をめざす。	2後	30		○	△		○			○		
○			生活支援技術・応用Ⅱ	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行なえるようになる。	2通	90		○	△		○			○		
○			介護過程各論Ⅱ	①実習体験の事例を通して、介護過程を理解する。②介護過程を通して、チームアプローチの重要性を理解する。	2通	60		○	△		○			○		
○			介護総合演習Ⅱ	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。	2通	60				○		○			○	
○			からだのしくみⅡ	Ⅰをふまえ、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	2前	30		○			○			○		
○			在宅介護実習	①在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアの実際を学ぶ。②他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を体験する。	2通	12					○			○	○	○
○			介護実習Ⅱ	介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な職種の役割について学ぶことで、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する	2前	160						○			○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			介護実習Ⅲ	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	2後	160			○		○	○	○	○		
○			医療的ケア	喀痰吸引・経管栄養の定義および手技等が理解でき、その対応に必要な人間の尊厳や利用者理解を知ること、介護福祉士としての役割を学ぶ。	2通	68		○	△		○	○	△			
合計															34科目	1,870単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(卒業要件) 履修すべき科目及び実習に係る出席時間数が指定規則に定める時間数に満たないものについては、当該科目に履修認定をしない。 最終学年の終了時において、履修認定を受けられない科目が2科目以下の場合には、卒業を延期する。この場合当該科目を次年度に再履修し、履修認定を受けた後卒業を認める。</p> <p>(履修方法) 科目の履修、単位の認定は学科試験、実習評価及び日常の学習状況をもって行なう。 学科試験は定期試験及び随時試験とし、実習の評価は、実習評価基準に基づき行う。 出席時間が所定時間の3分の2（但し、介護実習については100%）に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。 学習の評価は各科目について100点満点とし、60点以上を合格点とする。 学習の評価が合格点に満たない者は、授業科目について再試験を受ける事ができ、又実習については補習を行い、再評価を受ける事ができる。 疾病その他、やむを得ない理由により試験及び実習を終了しなかった者は追試験及び補習をうけることができる。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週